

今月のみことば 2025年8月

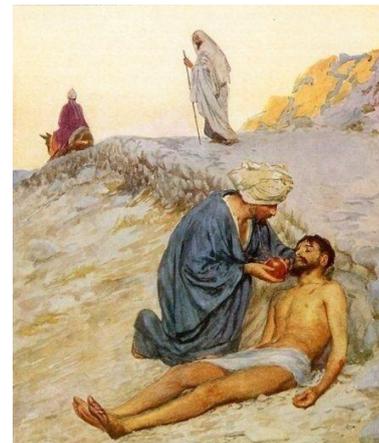
十字架のことばは、滅びる者たちには愚かであっても、救われる私たちには神の力です。

(コリント人への手紙1章18節)

思いがけない救い

皆さんは「善きサマリア人のたとえ」をご存知でしょうか。聖書の中にあるたとえ話の中でも、とりわけ有名で、多くの人々に知られています。

ある人がエルサレムからエリコへ向かう途中、強盗に襲われて重傷を負い、道端に倒れていました。「祭司」「レビ人」が通りかかりましたが、両者とも見て見ぬふりをして通り過ぎてしまいます。しかし、その後に、ひとりのサマリア人が通りかかると、倒れている人を深く憐れみ、傷を手当てし、宿屋に運んで介抱しました。そして、彼の宿泊費用まで負担したのです。



これは、ショッキングな内容です。旅人を助けたのは、宗教的・信仰的に立派な存在と思われた「祭司」「レビ人」ではなく、当時のユダヤ人から軽蔑され、嫌悪されていたサマリア人だったということです。助けられた人自身も、困惑したことでしょう。「サマリア人に助けられるくらいなら、このまま死んだほうがまだ！」とさえ思ったかもしれません。彼に対する救いの手は、思いがけないところから差し出されることになったのです。

ところで、聖書によると、神が私たちに与えられた救いもまた、実に意外なところにあるのです。

イエス・キリストの時代、人々が期待した救い主は、ローマ帝国を打ち倒す軍事的英雄でした。しかし実際に現れた救い主は、ナザレという小さな町の大工の息子で、馬小屋で生まれ、陰謀によって十字架で死んだ一人の男でした。



権力者でもなく、富豪でもなく、軍事的勝利者でもない——それどころか犯罪者として処刑された人物が、どうして救い主でありえるのか。人間の常識からすれば完全に「愚か」だとしか思えない話です。

しかし、この「愚かさ」の中に、神の深い知恵が隠されていました。神が人となり、人間の罪をすべて背負って、身代わりに死なれたことで、この御方を信じるすべての人に永遠のいのちが与えられるのです。この事実を伝える「十字架のことば」の中にこそ、信じる者を救う「神の力」があると、聖書は語っています。

「十字架のことば」は、今日も「愚かなメッセージ」として、多くの人々に届けられています。しかし、その「愚かさ」の中に、実は、神の救いと永遠のいのちが隠されているのです。(H)